

令和5年2月28日、西牧大使は、ウシウア・ムイニヤングエ保健・社会サービス副大臣、マリウス・シェヤ・クネネ州知事、オプウオ・クネネ州評議員、オプワ市長、保健・社会サービス省クネネ州局長及び当地 UNFPA 臨時代表とともに、令和3年度 UNFPA 経由補正予算案件「誰も取り残さない：ナミビアにおける避難民と新型コロナウイルスの拡大に関連する緊急事態における保健の不足の補填及びジェンダーに基づく暴力への対処」（供与限度額 462,962 米ドル）に係る事業地のひとつであるクネネ州における引渡式に出席してスピーチを行い、出産を控えた妊婦が病院の近くで短期滞在するための施設に、コンロ、大型冷蔵庫、机、椅子、蚊帳などを引渡し、食糧及び支援キットを裨益者に手渡しました。

この UNFPA を通した日本の支援により、同施設を利用する妊婦がより快適かつ安全に出産準備を整えることができるようになり、出産時におけるナミビアの高い母子の死亡率を低減させる効果も期待されます。

同式典では、受益者である妊婦代表がスピーチを行い、日本から提供された備品等は、これからも多くの妊婦が利用し続けられるよう大切に使用させて頂きたいという、謝意が述べられました。これを受け、州知事や市長も同施設を定期的に訪問し、備品管理に責任を持つ旨述べました。



式典でスピーチを行う西牧大使
（写真左から、当地 UNFPA 臨時代表、保健副大臣、州知事、市長、地元警察代表）



裨益者(右端)に支援キットを手渡す西牧大使と保健副大臣



支援キットの中身(標準セット)



受益者代表の妊婦によるスピーチ



ホーム内を視察する西牧大使と保健副大臣ほか



ホーム内部を視察する様子



暑いナミビアでは、日本政府から供与された大型冷蔵庫が喜ばれています。